

利根川水系・荒川水系

●千葉用水総合管理所(千葉県)
外来植物ナガエツルノゲイトウ等の防除作業に参加

5月24日(土)、薫風香る五月晴れの下、佐倉市白井田干拓(通称かっぱ公園)にて、恒例となった水土里ネット印旛沼主催による「外来水草 ナガエツルノゲイトウ及びホテイアオイ」の防除作業が行われました。

防除作業は平成23年から数えて4回目となりますが、今年も地域住民、民間企業・団体及び関係行政機関から約130名の方々が参加しました。毎年防除するナガエツルノゲイトウですが、防除しても再び水面を覆い尽くす状況。参加者一同、その繁殖力の大きさに驚かされました。

作業は、水中からナガエツルノゲイトウを除去する水中班、それを陸に引き上げ仮置き場に集積する陸上班に分かれて協同で作業を行いました。水資源機構職員は胴長を履き、全身が泥に濡れるのもいとわず水中作業に奮闘しました。水分を十分吸い込んだナガエツルノゲイトウは非常に重く、水中から陸上へ引き上げる人力作業は体力を極度に消耗しますが、今年は例年の作業ボート(2艘)やバックホウ(2機)に加え、一度に大量のナガエツルノゲイトウ群落を綱引きの如く陸上へ手繰り寄せる優れものも活躍するなど、年々その捕り物術も進化しています。約3時間あまりの防除作業でしたが、怪我する人も無く、作業は無事に終了しました。最後に地元の方々から参加者に対して、おこわ飯と取れたてのジャガイモや長ネギなどが振る舞われ、一日の労をねぎらっていただきました。

※除去したナガエツルノゲイトウは外来生物法の防除計画の確認を受けた千葉県印旛土木事務所において処分することになっています。

※ナガエツルノゲイトウ(特定外来植物)

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草。在来種の植物を駆逐したり、水面上に繁茂することで水流を停滞させる。また、農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じ、ポンプ運転に支障を来している。



大量群生する
ナガエツルノゲイトウ

水資源機構職員も
胸までドロまみれで奮闘!

●本社(埼玉県)
気象キャスターネットワーク勉強会で講演

気象予報とダムには密接な関係が…

6月28日(土)、気象キャスターネットワーク(以下「WCN」)の皆さんに「ダムの役割と気象予報」と題してお話しさせていただく機会を得ました。WCNは報道機関等で活躍されている気象予報士の皆さんが、「気象・環境・防災」をテーマに定期的に勉強会を開催しており、今回初めてダムの役割に関する講演会の開催となったとのこと。

機構からも気象予報士の資格を持つ職員が講師となり、濁水や洪水でのダムの役割を説明するとともに、気象予報とダム管理の密接な関係についてお話ししました。

今年の梅雨も激しい豪雨による災害が発生しました。また関東地方が洪水期を迎えるタイミングでの講演会となり、参加した皆さんも大変熱心に聴講・質問されていました。

平成25年度役職員の報酬・給与等の公表

独立行政法人水資源機構の役職員の報酬・給与等について、総務省の定めるガイドラインに基づき、ホームページに掲載しています。

http://www.water.go.jp/honsya/honsya/jyohokokai/document/pdf/20_s25_document.pdf

淀川水系

●関西支社(大阪府) & 木津川ダム総合管理所(三重県) 利水者・関係機関対象施設見学会を実施

木津川ダム総合管理所
情報処理室

関西支社では年に2度、利水者並びに関係機関の皆様を対象とした施設見学会を実施しており、本年は、6月5日(木)・6日(金)に「木津川ダム総合管理所」と「比奈知ダム」を見学していただきました。

見学会では、木津川ダム総合管理所 5 ダムの情報を管理する情報処理室や国内でも珍しい比奈知ダムの天端側水路のほか、常用洪水吐きゲート設備や利水放流設備などを27名の皆様に見学していただきました。

参加された皆様からは、「実際に施設を見て運用の具体的な説明を聞くことで、安全に安定した水資源の確保に努めていることが理解できた。」「ダムの中を実際に見ることができて、日頃の作業の苦勞等、維持管理の難しさがよくわかった。」などの感想をいただきました。

今後も、施設見学会等を通じて、機構事業への理解を深めていただけるよう、取り組んでいきたいと思っております。



比奈知ダム天端側水路

●日吉ダム管理所(京都府) 小中高生による土木施設見学会を開催

6月7日(土)、土木学会関西支部主催の土木施設現場見学会が、小中高生を対象に開催されました。小中高生とその家族160人が参加され、昨年の台風18号で活躍した日吉ダムと、京都府の南北を結ぶ京都縦貫自動車道の工事現場を見学しました。

初めは小雨まじりの天気でしたが、徐々に回復し見学日和に!日吉ダムでは、防災資料館でビデオや展示物で水の大切さを学んでもらい、展望台で昨年9月に記録したダムの最高水位を実感していただきました。その後、堤体内のインフォギャラリーで、常用洪水吐きゲートなどの、設備の働きやダム管理について説明しました。

参加者から、「分かりやすい説明でよく理解できた」「また家族でゆっくり訪れたい」との感想をいただくなど、次の世代を担う子供たちやその家族の皆さんに、ダムや道路などの社会インフラの必要性を理解していただく良い機会になりました。



ダム展望台より

これって、
?
 なあに?

長良川河口堰で一番大きなゲートは、長さ45m・(締め切った時の)高さ8.2mで、ワイヤロープの太さは直径58ミリも! 大~きい!



長良川河口堰 アックン

長良川河口堰で
 沢山の「キノコ」のような
 建物発見!
 …これ、なあに?

「キノコ」じゃナイよ!**巻き上げ機室(開閉機室)**と言
 うんだよ。

中にゲート(水門扉)を動かすための機械が設置されているんだ。
 ゲートは上段・下段の2つのゲートで1門となっていてね、1つのゲートの両端に1組ずつ巻き上げ装置、1門に4組の巻き上げ装置があるんだよ!

キノコ…じゃなくて巻き上げ機室内には、4組の巻き上げ装置が設置されていて、ワイヤロープを巻き上げたりしてゲートを動かしてるんだ!

